



ともあれ、駐屯地司令の下、56周年記念行事を成功に導いてくれた、「34」の手際の良さでご苦勞に、改めて敬意と感謝を申し上げ、益々のご健闘を心よりお祈りさせて頂きたい。

「警報」が出されたとなれば、当然出動の準備もしていたに違いない。その上急遽の会場変更とくれば、さぞ慌ただしかった事だろう・・・

内容だったと言えよう。特に目の前で練り広げられた普通科の威圧感ある機敏な動作や空砲を交えた戦闘展示は圧巻の極み。模擬とは言え、その真に迫った迫力にすっかり圧倒され、此れも有り、新たな認識を植え付けられてしまった事も付け加えて置きたい。

式展も終わり、体育館を出ると、外は一転、数時間前の悪天候が嘘のように晴上り、「霊峰・富士」もくっきりと雲間にその姿を見せている。

これも「軍神」が一般来場者のために神風を吹かせてくれたのだろう・・・

お陰で、野外ステージを始め、装備品展示や野外売店には例年通りの人だかりが出来、縮小された記念行事の鬱憤を晴らすが如く、隊員も来場者も一緒に成って盛り上がり、「34」と地域の親密振りを見せてくれた、何とも微笑ましくもあり、フィナーレを飾るに相応しい光景である。

